

「学び」イベント情報 募集中!!

研究者の皆様が市民へ向けに行なっている公開講座やシンポジウム等の情報提供をお待ちしております! 掲載料は無料です。



3 MAR 【英語英文学研究所定例公開講演会】
キーツのオード群再訪 3月 5日(土) 14:00▶15:00
 講師 吉田 信 (東北学院大学教養学部教授) 無料 申込不要
 場所 東北学院大学泉キャンパス 215 教室 定員 30 名
 主催者 東北学院大学 英語英文学研究所 問合せ TEL 022-264-6401
 URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/

れきはく講座「近世絵画に見る仙台藩の風景」 3月 6日(日) 13:30▶15:00
 講師 大久保 春野 (東北歴史博物館学芸職員) 無料 申込不要
 場所 東北歴史博物館 3 階講堂
 主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106
 URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

かたりつき～朗読と音楽のタベ～東日本大震災の「語りつく記憶」(朗読・竹下景子) 3月 6日(日) 14:00▶16:00
 報告 柴山 明寛 (東北大学災害科学国際研究所准教授) 他 無料 要申込
 場所 宮城学院女子大学 講堂
 主催者 東北大学災害科学国際研究所、宮城学院女子大学、他 問合せ TEL 022-752-2099
 URL http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/symposium/2016katari-tsunagu

れきはく講座「宮城県における縄文時代の葬墓制」 3月13日(日) 13:30▶15:00
 講師 相原 淳一 (東北歴史博物館学芸職員) 無料 申込不要
 場所 東北歴史博物館 3 階講堂
 主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106
 URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

東北大学サイエンスカフェ 第 126 回：火星に飛行機を飛ばす～進化する航空機の世界～ 3月18日(金) 18:00▶19:45
 講師 浅井 圭介 (東北大学大学院工学研究科教授) 無料 申込不要
 場所 せんだいメディアテーク 1 階オープンスクエア
 主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-5132
 URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

第 10 回館長講座「日本の博物館の発達」 3月19日(土) 13:30▶15:00
 講師 鷹野 光行 (東北歴史博物館館長) 無料 申込不要
 場所 東北歴史博物館 3 階講堂
 主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106
 URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

※登壇者(講師、演者、担当者)については敬称略

「学び」イベントに参加したら感想を書こう!

「学び」イベントに足を運ばれた読者の皆様から寄せられたご意見ご感想、講義内容のレポートを、「学び」イベントに行ってきた!のコーナーでご紹介しています。ぜひご投稿ください!

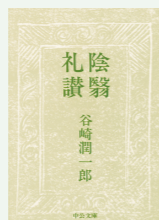
【投稿者プレゼント】
 ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント!
 掲載採用させていただいた方のうち毎月1名様!1000円分の図書カードを進呈!
 ※採用可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。

■投稿内容 ・イベントタイトル ・開催日時 ・会場 ・登壇者(講師・演者等) ・参加体験記(420字以内) ・氏名(ペンネーム) ・連絡先	■投稿方法 はがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームのいずれかよりご投稿ください。 ■投稿先 「まなびのめ」編集部 ※詳細は最終ページをご覧ください。
--	--

「まなびのめ」主な設置場所
 「まなびのめ」紙版は、主に下記の場所で入手できます。見当たらないときはお気軽にお問い合わせください。
 ・宮城県内各大学
 ・宮城県内主な文化施設(宮城県図書館、宮城県美術館、東北歴史博物館、仙台市各図書館、仙台市博物館、仙台文学館、仙台市科学館、地底の森ミュージアム、仙台市歴史民俗資料館、仙台市天文台、感覚ミュージアムなど)
 ・宮城県内主な会館(東京エレクトロンホール宮城、日立システムズホール仙台、仙台市民会館、仙台市戦災復興記念館、名取市文化会館、岩沼市民会館、えずこホール、白石市ホワイトキューブ、まほろばホールなど)
 ・主な市民センター(仙台市)、公民館(仙台近郊)、公立図書館(仙台近郊)など

「まなびのめ」配色法: 装色目(かさねのいろめ) 第 31 号・冬 / 「枯色」(kare-iro)

第32回 名著への旅



『陰翳礼讃』
 谷崎潤一郎 著
 中公文庫

(1975年10月10日 初版発行)

昭和初期に書かれた随筆である。便利な西洋の文明装置のコードやスイッチは、純日本風の家屋では目障りに感じられ、どのようにしたら調和させられるかと葛藤する様子から始まる。西洋と日本(東洋)の文明の発達、そして本質的な美意識の相違に話題が及ぶ。日本人は陰翳とともに生活することを餘儀なくされたことで陰翳のうちに美を発見し、やがて美の目的に添うように陰翳を利用するようになったと指摘している。

表題のほかにも短編が収録されている。「陰翳礼讃」で、日本建築の中で一番風流に出来ているのは廁であると云えなくはない、とあるように5編のうちの1編は廁について語られているのもまた面白い。時代を越えて、現代でも日本人の実感として理解できる部分が必ずあるだろう。

(志)

Web版ならでは

編集部 コラム 編集部だより Web版もご覧ください
 紙版では読めない取材裏話やおすすめ書籍の紹介など、編集部員のコラムコーナー。編集部員に興味を持ったアナタは是非アクセス!



「もうすぐ5年」を前に
 2011年3月11日から「もうすぐ5年」が近づいて...

もう第30号です。
 10月になりました。一年の中でも、秋は過ごしやすい...



終盤報告
 もともと雪の降らない静岡県出身なので寒さに弱いと思...



ヘッドライト
 今年は9月21日～30日が秋の全国交通安全運動...



そうだ、勉強しよう
 8月より「まなびのめ」編集部員となった小嶋です。...

創作の境界線
 芸術の秋に相応しい季節になってきました。広辞苑に...



学びの庭におじゃまします

次号テーマ: 「主権」

2016年4月5日発行予定

「氣」になる「氣」...当社は言葉を祖版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先 / 問い合わせ先

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号
 笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
 FAX 022-288-5551
 TEL 022-288-5555
 (FAXは24時間受付 電話受付時間 10:00~16:00 土・日・祝日除く)
 ✉ manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第31号/発行日2016年1月5日
 企画・編集 笹氣出版印刷株式会社「まなびのめ」編集部/発行 笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部 川又進 佐藤暁 齋藤麻実 三上志穂 小嶋理恵子
 オブザーバー: 笹氣義幸 只野俊裕 寺田征也(明星大学)/協力: 株式会社市瀬 有限会社阿部 正志製本

©笹氣出版印刷株式会社 無断で複写、複製、転載することを禁じます。
 この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC®認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。



FREE ¥0 ♡ご自由にお持ち帰りください。

図書カード懸賞付
 クイズあります

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

学びの庭におじゃまします

シリーズ「東日本大震災」(5)
 —伝える・遺す—

東日本大震災のあらゆる記録を未来へ



東北大学 災害科学国際研究所 准教授
 (地震工学・災害情報学)

柴山 明寛 先生

被災者に寄り添う立場からの復興を



東北学院大学 教養学部 教授
 (災害社会学)

金菱 清 先生

〈行ってみよう! 「学び」の場所へ〉

- これからの主な「学び」イベント35件掲載!
- 「学び」イベントに行ってきました
- 名著への旅 「陰翳礼讃」(谷崎潤一郎)
- Voice Park

季刊誌
 31号
 2016.1



Web版は随時更新中!

まなびのめ 検索

http://www.manabinome.com/

発行 / 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な

「学び」イベント

有料 無料 要申込 申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合せへご確認ください。

有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細は **Web版**に掲載しております。ぜひご覧ください。

定期開催 トワイライトサロン 毎週土曜日
「天文台長土佐誠の宇宙が身近になる話」 16:50▶17:30
 講師 土佐 誠 (仙台市天文台長) 他 無料 申込不要
 場所 仙台市天文台 オープンスペース
 主催者 仙台市天文台 問合せ TEL 022-391-1300
 URL http://www.sendai-astro.jp/

開催中 企画展: せんだい再発見! —こんなことわかりました。平成の『仙台市史』— ~2月28日(日) 9:00▶16:45
 有料 申込不要
 場所 仙台市博物館 (入館は16:15まで)
 主催者 仙台市博物館 問合せ TEL 022-225-3074
 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/

企画展「ヒマラヤへの憧れ—東北人の登山記録から防災アウトドアへ—」 ~3月21日(月・祝) 9:30▶17:00
 有料 申込不要
 場所 東北歴史博物館 1 階特別展示室
 主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106
 URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

特別展 「仙台のまちと近代交通」 ~4月17日(日) 9:00▶16:45
 有料 申込不要
 場所 仙台市歴史民俗資料館 (入館は16:15まで)
 主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956
 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/

1 JAN 講座「こんなことわかりました。仙台市史」(1) 現代編・近代編 1月16日(土) 13:00▶15:30
 講師 佐藤 信夫 (元 仙台市市民文化事業団理事長) 他 無料 申込不要
 場所 仙台市博物館 定員 200 名
 主催者 仙台市博物館 問合せ TEL 022-225-3074
 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/

市民公開講座 No.331 今、教員はどのようにして養成されているか: 東北工業大学教職課程の取り組みを事例に 1月22日(金) 18:00▶19:30
 講師 中島 夏子 (東北工業大学教職課程センター講師) 無料 申込不要
 場所 東北工業大学一番町ロビー 4 階ホール 定員 60 名
 主催者 東北工業大学 問合せ TEL 022-723-0538
 URL http://www.tohtech.ac.jp/

東北大学リベラルアーツサロン 1月22日(金) 18:00▶19:45
第 39 回: 震災・復興をめぐる政治理論
 講師 犬塚 元 (東北大学大学院法学研究科教授) 無料 申込不要
 場所 せんだいメディアテーク 1 階オープンスクエア
 主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-5132
 URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

れきはく講座「発掘された金属製品を守る」 1月24日(日) 13:30▶15:00
 講師 芳賀 文絵 (東北歴史博物館学芸職員) 無料 申込不要
 場所 東北歴史博物館 3 階講堂
 主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106
 URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

講座「仙台のまちと交通の過去・現在・未来」 1月24日(日) 13:30▶15:00
 講師 姥浦 道生 (東北大学大学院工学研究科准教授) 有料 申込不要
 場所 仙台市歴史民俗資料館 定員 20 名
 主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956
 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/

※登壇者(講師、演者、担当者)については敬称略

東日本大震災のあらゆる記録を未来へ

120 超の機関の協力で記録を残す

東日本大震災に関するあらゆる記録を収集し、国内外や未来に発信するプロジェクト「みちのく震録伝」で、マネジメントとシステム設計を担当しています。立ち上がったのは、震災があった2011年の9月です。震災の遺物そのものは、残念ながら保管の都合上収集できませんが、写真や証言などの膨大な記録を、主にデジタルデータとして保存し、研究や防災に活用するためのシステムの開発と運用に取り組んできました。

実は1995年に発生した阪神淡路大震災については、現在の目で見ると驚くほど記録が残っていません。記録の重要性が認識されていなかったわけではなく、震災直後に記録を収集する体制が組めなかったことや、データをデジタル化しておく技術や機器が不十分だったことが大きな理由です。「みちのく震録伝」はこうした反省に基づき、可能な限り全ての記録を保存することを目指してきました。

このプロジェクトの大きな特徴は、大学や研究機関という「学」だけでなく、自治体や行政機関などの「官」、企業などの「産」、そして市民団体などの「民」が力を合わせて進めている点です。賛同・協力をいただいている機関はおよそ120に上り、私はご理解とご協力をお願いするためにプロジェクトの意義を説明して回ってきました。

記録の収集は、決してスムーズに行われたわけではありません。「学」の世界では、論文として発表する前のデータを提供することに抵抗感があります。「官」や「産」も、公開を前提とせずに記録された情報の提供には慎重です。「民」では、被災した方々への聞き取りやその内容の公開に配慮が必要ですし、市民が撮影した写真も、ただ集めるだけではなく日時や場所を特定したり、公開にあたって肖像権の問題をクリアしたりする等の必要があります。こうした困難を乗り越え、現在では公開しているものだけで12万点を超えました。

「みちのく震録伝」は東日本大震災による被害だけでなく、その後の復旧・復興のプロセスや、将来起こる災害をも記録しようとするプロジェクトです。「民」の分野では、各地域の住民の方や消防OBの方に、現在も記録や情報の収集に当たっていただいています。

研究者として悔やまれた大きな被害

私は最初、建築構造の研究者としてスタートしました。高校3年生のときに阪神淡路大震災が発生し、神戸にいた兄の安否がしばらく不明だった経験から、「家族や友人の命を守る建築を」と考えるようになったのです。

建築基準法に基づく新耐震基準は、1981年に定められました。1995年の阪神淡路大震災では建物の倒壊で多くの方が亡くなりましたが、この新耐震基準の導入以後の建物では、倒壊がほとんど見られませんでした。現在の耐震基準を満たした建物では、大きい地震が起きても、倒壊して人が亡くなることはほとんどないと言えます。

こうしたことを学び、私は関心を「命を守る建物」から、「地域防災」や「災害情報」へと広げて学び続けてきました。建物自体がいくら丈夫でも、地盤によって被害の大きさはまるで違います。また古い建物が多い地域では、倒壊や火災によって被害が拡大したり深刻化したりする可能性が高いのです。自分や家族だけでなく地域の人々の命を守るためにも、自分が暮らす土地の弱点を知り、耐震改修を行い、防災訓練に参加するなどの対策が欠かせません。

一方、かつては災害時の記録自体が市民の関心を集めることはほとんどありませんでした。東日本大震災後は、記録や資料の保管庫という意味の「アーカイブ」という言葉が知られるようになりましたが、私は以前から震災を記録する研究に取り組んでいたのです。

3月11日は、東北大学青葉山キャンパスにある工学研究科の総合研究棟にいました。建物は14階建てですが、私の研究室は1階です。それでも揺れは激しく、「これは想定されていた宮城県沖地震を上回る規模だ。まずい」と思いました。私は大学の防災担当者として、学内に情報を発信するコンピュータの動作を確認し、受け持ちの学生たちが11階から階段を降りてきてから一緒に外に出ました。幸いモバイルでインターネットにつながったため地震の規模を知り、家族とも連絡が取れましたが、安否が取れていない学生達の対応に追われ、津波には

考えが及びませんでした。

帰宅できない教職員・学生ら100名以上と共に青葉山キャンパスの工学部中央棟という建物で夜を明かすことになりましたが、車のガソリンに余裕があったことから、さっそく当日大学にいなかった学生たちの自宅を訪ねて安否を確認して回りました。ほぼ全員分が確認できるまで、2、3日ほどかかったでしょうか。その後も片平キャンパスの大学本部に詰める日々が続き、自宅も建物は無事だったものの室内が乱れたまま2時間だけ眠るという生活が続きました。

その後、大学全体の再開の見通しがつき、研究者として震災の実態解明に移りました。建築の専門家チームによる被害調査は、震災から翌々月の5月から始まりました。被災地40カ所に入って1万4,000棟の建物を調べ、それぞれの地域の建物の被災割合を算出し、震災の実態解明と今後の被害想定基礎資料づくりを行っておりました。ようやく落ち着いて丸1日を自宅で過ごせるようになったのは、8月半ばのことでした。

もちろん大変でしたが、地域防災を研究する者として、多くの方が亡くなったことには強い責任を感じずにいられません。研究が進んでいれば守れた命もあったはずだという悔いは、今もあります。今後も「命を守るための研究」に力を尽くしたいと思っています。

「被害がなかった」記録にも大きな価値

東日本大震災からもうすぐ5年になりますが、「みちのく震録伝」への理解の広がりや、事業を継続するための環境は、決して十分とは言えません。特に市民の皆さんには、「被害がなかった」ことが分かる写真や証言にも、大きな価値があることをご理解いただきたいと思っています。

大きな災害では、被害状況が分かりやすい記録に重きが置かれがちです。しかし建物でいえば、地盤が強固だったり、耐震設計や補強改修が適切だったために、あれほど大きな地震でも無事だったということを示す情報も欲しいのです。人であれば地震の大きさや、津波の危険性を伝える情報に基づき、いち早く高い場所に避難したため助かったという記録を、ぜひ後世や他の地域に伝えたいのです。特に地震発生から72時間以内の記録は貴重で、私たちとしてはその全ての情報を収集・保存したいと願っています。

私が所属する災害科学国際研究所では、2016年も1月11日に「東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム」を、3月6



日に「語りベシンポジウム『かたりつぎ』」を開催します。「国際シンポジウム」では震災記録の利活用について現状と課題を検討し、未来へ、世界へどのように伝えていくかを考えます。今年は、2004年のスマトラ沖地震津波を伝えるために建設された「アチェ津波博物館」の館長トミー・ムリア・ハサン氏をお招きして講演していただく他、私を含む6名が報告を行います。災害科学国際研究所が会場です。

もう一つの「語りベシンポジウム『かたりつぎ』」は、震災を未来へ語り継ごうという催しです。俳優の竹下景子さんの朗読、合唱など多彩な内容で、私も報告を行います。こちらは東北大学だけでなくいろいろな地域で開きたいと考えていて、昨年は多賀城市の文化センターが会場でした。今年は宮城学院女子大学で、来年からは東北の他県での開催を目指しています。

私たちの災害アーカイブ研究室では、現在も震災記録の収集を続けています。どんな写真や体験も、次の世代や他の地域や国にとっての貴重な教訓になり得ますのでご協力ください。また震災記録とその活用について話を聞いてみたいという地域の団体などがあれば、どうぞ研究室までご連絡ください。東日本大震災の尊い犠牲を無駄にしないよう、まずは私たち自身が体験や記録に学ばなければならないということを、ぜひ多くの方に知っていただきたいと思います。

(取材= 2015年11月6日/東北大学青葉山キャンパス 災害科学国際研究所棟3階 災害アーカイブ研究室にて)



東北大学 災害科学国際研究所 准教授
専門=地震工学・災害情報学

柴山 明寛先生

《プロフィール》(しばやま・あきひろ) 1976年静岡県生まれ。東海大学工学部卒業。工学院大学工学研究科修了。博士(工学)。東北大学大学院工学研究科、独立行政法人情報通信研究機構勤務を経て、2008年より東北大学大学院工学研究科助教。2012年より災害科学国際研究所にて現職。

学びの庭におじゃまします

「伝える・遺す」のお二人目は、震災直後からこの大震災の記録を残すことに取り組まれている東北学院大学・金菱清先生。被災者本人が書くことに思わぬ効用も生まれているようで、そこからも私たちが学べることがたくさんありそうです。多くの人がまだ「震災の中にいる」ことも伝わってきます。

被災者に寄り添う立場からの復興を

2つの大震災を直接経験

私は大阪の出身で、1995年の阪神淡路大震災と2011年の東日本大震災の両方を直接経験しています。阪神淡路の発生は1月で、大学受験が目前でした。生まれてから大きい地震の経験は一度もなく、「関西で大地震は起こらない」と言われていたのです。激しい揺れで目を覚ますと、幸い家は無事でした。ところが部屋の引き戸を開けたところ、3階からか飛んで来た材木が目の前に横たっていました。

私が住んでいた地域は、前年の9月に集中豪雨の被害を受けていました。災害に対して油断していたつもりはなかったのですが、まさか4カ月後に巨大地震に見舞われるとは、全く想定していませんでした。

交通機関が未復旧だった2月初め、私は新幹線の高架橋が落ちたり家が倒壊している中を歩いて試験会場に向かいました。大学に入ると社会心理学の講義で災害が取り上げられましたが、その実例は直近の阪神淡路大震災ではなく、数十年前の新潟地震だったのです。学問では、しかるべき時間をかけなければ何かを言うことはできないという考えもあるでしょうが、私は疑問を持ちました。そこから研究者として、「災害とは何か」



東北学院大学 教養学部 教授
専門=災害社会学

金菱 清先生

〈プロフィール〉(かねびし・きよし) 1975年大阪府生まれ。関西学院大学社会学部卒業。関西学院大学大学院社会学研究科博士課程 単位取得満期退学。博士(社会学)。東北学院大学教養学部専任講師、准教授を経て、2014年より現職。東日本大震災関連の著書に『震災メモリー 第二の津波に抗して』、『震災学入門 死生観からの社会構想』、編纂に『3.11 慟哭の記録 71人が体感した大津波・原発・巨大地震』、『千年災禍の海辺学—なぜそれでも人は海で暮らすのか』、『呼び覚まされる霊性の震災学—3.11 生と死のはざままで』など。

と考え続けることになったのです。

仙台にやって来たのは2005年です。当時から高い確率で宮城県沖地震が発生すると言われていたので、住いを選ぶにあたっては耐震性能にも気をつけました。東日本大震災には自宅で遭遇しました。

外に出ても阪神淡路大震災のような建物の倒壊こそありませんでしたが、ワンセグのテレビや関西からの情報で、沿岸部が津波に襲われたことを知ります。たまたま2週間ほど前、2004年にインドネシアのスマトラ島沖で発生した地震による大津波が描かれた「ヒア アフター」という映画を見たばかりだったので、大変な被害になるだろうと思いました。

大学は休みに入っていました。在学中の、また卒業したばかりの学生たちが案じられてなりません。大学には連絡がつかず、車は立体駐車場が止まって動かすことができませんでした。その後、徐々に連絡が取れるようになって、沿岸部に実家がある学生たちの安否情報も入り始めました。ほっとする一方で、私は阪神淡路大震災の経験から、この震災の記録を残さなければと、一週間後には動き出したのです。

聞き取りではなく被災者自らが書く

阪神淡路大震災の報道について、私には苦い思い出があります。一つはジャーナリズムが事象の大きさばかりを追いかけ、震災の身の丈にあった全体像に迫ろうとしなかったこと。もう一つは2カ月後に東京で地下鉄サリン事件が発生し、社会の関心が一気にオウム真理教へと向かってしまったことです。次の大規模災害に教訓を伝えるためにも、被災エリア全体の被害状況と、その後の経過を追うべきだと思っていました。

東北学院大学には宮城県だけでなく隣県からも学生が集まっており、その出身地は、まさに東日本大震災の被災エリアに重なります。加えて卒業生であるOB、OGも、その多くが被災地に住いや仕事があるのです。このネットワークを使えば、今回の被害の全体像を空からではなく人の視点から記録し、残すことができるはずだと私は考えました。

しかしようやく交通手段が復旧して大学へ出てみると、研究室のある建物は損傷して入れず、互いの安否確認さえも紙の名簿で行わなければならない状況です。5月にずれ込んだ授業の開始を待たざるを得ませんでした。1年生向けの授業で震災のレポートを求めると、たくさんの学生が切実な体験を報告してくれました。学生たちの心の傷に触れることを危ぶむ声もあ

懸賞

図書カードを当てよう! まなびめクイズ 正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 [5W1H] 形式で被災者本人に手記を書いてもらう手法を何と名づけた?

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。柴山明寛先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2016年2月29日 当日消印有効



こうして心の痛みを「温存」しながら書き上げた手記は、ご遺族の心のよりどころにもなっています。出版された『3.11 慟哭の記録』をお届けに上がった先で、私は何人もの方から「いつでもこの本(記録)を開けたら家族が生きている」「本の中だったら(息子が)生き続けることができる」といった声をお聞きしました。私が「記録筆記法」と名づけたこの方法は、東日本大震災以外の被災者にとっても有効だと思われます。

亡くなったはずの家族を見たり、会いにきたのが分かったり、いるのを感じたりした、というご遺族の声も、私は決して否定するべきではないと思います。家族以外でも、例えば被災地で働くタクシー運転手の中には、「亡くなった方を乗せた」と話す方が少なくありません。これは震災から4年以上経った今も死者たちのことを忘れたくないという「地域の気持ち」の、一つの表現としてとらえるべきではないでしょうか。

東京や被害の少なかった都市部に暮らしていると、ご遺族や、深刻な被害を受けた地域に暮らす人々の気持ちに鈍くなることは避けられません。つい「復興を加速しよう」「5年を区切りに」といった発想になってしまいがちです。しかし被災者への想像力を失い、地域の感情や意思を無視して高台への移転や巨大な防潮堤の建設を急いでも、誰も幸せにはなれません。「もう住む人がいないから」とバス停を内陸側に移動させることが、避難先で暮らす高齢者の、「元の家を畑を耕したい」という願いを挫き、認知症を進行させることもあるのです。

私たちは誰もが、自らの価値観や人生観、そして死生観に従って生きていたいと思っています。そうであれば被災者の方々の願いにも素直に耳を傾け、その実現を図ることこそが本当の復興であり、支援なのではないでしょうか。私はこれからも「鳥の視点から」ではなく、こうした「虫の視点から」、災害について考え続けていきたいと思っています。

(取材=2015年11月13日/東北学院大学泉キャンパス)

3号館5階 金菱清研究室にて)

りました。しかし私は、人類史に残るこの災害を記録しない選択はあり得ないと考えたのです。

辛い学生たちは、私の意図をしっかりと理解してくれました。私がさらに詳しい報告を求めたり、ご家族などへの協力を依頼したりすると、積極的に応じてくれたのです。また卒業生のネットワークも機能し、広く被災エリア全体から手記を集めることができました。ご家族を亡くされた方も書いてくださいましたし、不自由な避難先で紙さえも手元にない中、カレンダーの裏などに書いてくださった方もあったのです。こうして集まった貴重な記録の一部は、震災から1年を待つことなしに、『3.11 慟哭の記録 71人が体感した大津波・原発・巨大地震』(第9回出版祥会新聞社学芸文化賞)にまとめることができました。

聞き取り調査も有効ですが、体制を整えたり実際の作業を進めたりする間に、被災者の記憶はあいまいになってしまいがちです。被災者自身が、災害発生からあまり経たないうちに記録をすることには大きな意味があります。今回はご自身の行動を、いわゆる「5W1H(いつ・どこ・だれ・なに・なぜ・どのように)」の形で記述していただきましたが、必要に応じて補足をお願いすれば、十分に客観的で信頼できる記録になることもわかりました。そしてもう一つ、全く考えていなかったことですが、被災者の方々にとっては辛い体験を書くことが、逆に心の平安をもたらすことが分かったのです。

「記録筆記法」が被災者に癒しを

被災者の心を癒すには、専門家によるカウンセリングが有効だと考えられてきました。しかし家族を失った方の中には、自分が楽になってしまうことは、亡くなった方を忘れてしまうこと、家族を失った痛みを忘れてしまうことになるのではないかと恐れている方もいらっしゃいます。「楽になりたい」けれども「自分だけが楽になってはいけない」という、相反する感情を持っているのです。そうした方にとって「自分だけが救われる」ような方法は、もう一度家族を失うことに等しく、強い抵抗を感じずにはられません。

ところがこうした被災者の中には、私がお願いした手記を書いたことで心の平安が得られたという方が少なくないのです。それは愛する人の死を「5W1H」に置き換えて書き、自ら推敲を加える中で、その死が必ずしも自分のせいではなかったことが確認できたり、「その死者と共に思い出し、書く」という気持ちになれたりするからだということがわかってきました。

<div><div></div>Web版はより多くの情報を随時更新しています。</div>	<div><div></div>検索</div>
<div><div></div>http://www.manabinome.com/</div>	
<div><div></div>1 JAN</div>	

<div><div></div>特別講演会「ニュートリノって何がすごい!? ～この物質世界をつくったのは、ニュートリノかもしれない～」</div>	<div><div></div>1月24日(日)</div>
<div><div></div>14:00▶15:30</div>	
<div><div></div>講 師 井上 邦雄(東北大学ニュートリノ科学研究センター長)</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 仙台市天文台 加藤・小坂ホール</div>	
<div><div></div>主催者 仙台市天文台</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-391-1300</div>
<div><div></div>URL http://www.sendai-astro.jp/</div>	

<div><div></div>東北大学サイエンスカフェ 第124回：薬の副作用を見つける半導体チップ</div>	<div><div></div>1月29日(金)</div>
<div><div></div>18:00▶19:45</div>	
<div><div></div>講 師 平野 愛弓(東北大学大学院医学工学研究科准教授)</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア</div>	
<div><div></div>主催者 東北大学</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-217-5132</div>
<div><div></div>URL http://cafe.tohoku.ac.jp/</div>	

<div><div></div>講座「こんなことわかりました。仙台市史」(2)近世編</div>	<div><div></div>1月30日(土)</div>
<div><div></div>13:00▶15:30</div>	
<div><div></div>講 師 仙台市博物館職員 2名</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 仙台市博物館</div>	<div><div></div>定 員 200名</div>
<div><div></div>主催者 仙台市博物館</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-225-3074</div>
<div><div></div>URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/</div>	

<div><div></div>第8回館長講座「ヨーロッパの博物館(2)」</div>	<div><div></div>1月30日(土)</div>
<div><div></div>13:30▶15:00</div>	
<div><div></div>講 師 鷹野 光行(東北歴史博物館館長)</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 東北歴史博物館 3階講堂</div>	
<div><div></div>主催者 東北歴史博物館</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-368-0106</div>
<div><div></div>URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/</div>	

<div><div></div>復興大学公開講座「震災5年 被災地の取材から―被災者の声から考える復興の現状―」</div>	<div><div></div>2月 6日(土)</div>
<div><div></div>13:00▶15:00</div>	
<div><div></div>講 師 津田 喜章(NHK 仙台放送局アナウンサー)</div>	<div><div></div>無料 要申込</div>
<div><div></div>場 所 東北大 川内北キャンパス マルチメディア館2階 2階マルチメディアホール</div>	<div><div></div>定 員 200名</div>
<div><div></div>主催者 復興大学 復興人材育成教育コース</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-795-4933</div>
<div><div></div>URL http://www.fukkou-daigaku-jinzai.jp/extension/</div>	

<div><div></div>まちなか美術講座「黄金をめぐる物語」</div>	<div><div></div>2月 6日(土)</div>
<div><div></div>13:30▶15:00</div>	
<div><div></div>講 師 宮坂 敦子(宮城県美術館学芸員)</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 東北工業大学一番町ロビー 4階ホール</div>	<div><div></div>定 員 60名</div>
<div><div></div>主催者 宮城県美術館×東北工業大学一番町ロビー</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-221-2111</div>
<div><div></div>URL http://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/</div>	

<div><div></div>復興大学公開講座「被災地経済の復興―資金面を中心として―」</div>	<div><div></div>2月 6日(土)</div>
<div><div></div>15:30▶17:30</div>	
<div><div></div>講 師 鴨池 浩(東北福祉大学総合マネジメント学部教授)</div>	<div><div></div>無料 要申込</div>
<div><div></div>場 所 東北大 川内北キャンパス マルチメディア館2階 2階マルチメディアホール</div>	<div><div></div>定 員 200名</div>
<div><div></div>主催者 復興大学 復興人材育成教育コース</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-795-4933</div>
<div><div></div>URL http://www.fukkou-daigaku-jinzai.jp/extension/</div>	

<div><div></div>れきはく講座「仙台藩の鯨とり」</div>	<div><div></div>2月 7日(日)</div>
<div><div></div>13:30▶15:00</div>	
<div><div></div>講 師 菊地 逸夫(東北歴史博物館学芸職員)</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 東北歴史博物館 3階講堂</div>	
<div><div></div>主催者 東北歴史博物館</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-368-0106</div>
<div><div></div>URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/</div>	

<div><div></div>講座仙台学2015「仙山の緩和ケア～がんへの備え～」</div>	<div><div></div>2月13日(土)</div>
<div><div></div>10:30▶12:00</div>	
<div><div></div>講 師 菅原 よしえ(宮城大学看護学部准教授)</div>	<div><div></div>無料 要申込</div>
<div><div></div>場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール</div>	<div><div></div>定 員 80名</div>
<div><div></div>主催者 学部仙台コンソーシアム・宮城大学</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-377-8414</div>
<div><div></div>URL http://www.myu.ac.jp/site/renkei/gakutokouszen2015.html</div>	

<div><div></div>復興大学公開講座「復興市民まちづくり―阪神大震災からの市民主体の復興とは―」</div>	<div><div></div>2月13日(土)</div>
<div><div></div>13:00▶15:00</div>	
<div><div></div>講 師 小林 郁雄(兵庫県立大学大学院環境環境景観マネジメント研究科特任教授)</div>	<div><div></div>無料 要申込</div>
<div><div></div>場 所 東北大 川内北キャンパス マルチメディア館2階 2階マルチメディアホール</div>	<div><div></div>定 員 200名</div>
<div><div></div>主催者 復興大学 復興人材育成教育コース</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-795-4933</div>
<div><div></div>URL http://www.fukkou-daigaku-jinzai.jp/extension/</div>	

<div><div></div>※登壇者（講師、演者、担当者）については敬称略</div>	
--	--

「学び」イベントに行ってきました

<div><div></div>市民公開講座 No.325 「導きのデザイン」</div>	
<div><div></div>講師 東北工業大学ライフデザイン学部准教授 鹿野 護 氏</div>	
<div><div></div>2015年10月30日(金) 18:00～ 東北工業大学一番町ロビー 4階ホール</div>	

10年ほど前、「世界の中心で愛を叫ぶ」と言う小説が流行していた。タイトルだけを聞いて「世界の中心ってマントルかな。よく分からないけど、きっと地球の中側で地底人が頑張るSFストーリーだろうな」と考えていた（ちなみに今、周囲の人物に「世界の中心はどこですか?」とアンケートを取った所、オーストラリア…2、アメリカ…1、赤道…1という結果になった）。実際その小説は青春恋愛ストーリーで、世界の中心はオーストラリアにあるエアーズロックだと明かされていた。手に取った私は「想像と全然違う!!」と心の中で叫んだ。

さて、上記の様にイメージが人によって異なる事は多々ある。市民公開講座「導きのデザイン」を受講して、これを強く感じた。例えば公開講座内で出てきた事例だが、「太陽」と述べるとA氏は「すごく大きい」と想像し、B氏は「直径が1,392,000 kmある恒星」と想像する。これを同一のイメージというのは若干苦しい。このように、自分と他人の想像するイメージが完全に一致する事はほとんど無い。

人と人の間に生きる私たち人間は、この想像力の不一致を補うにはどうすれば良いのだろうか。講座内では一つの解として、「要素の分解」「取捨選択」「要約・再構築」をした後にビジュアライゼーション（正しい視覚化）+エモーショナルデザイン（人の心を動かす）を活用する事を提案した。前述した太陽の例では、まず太陽について単語で分類し、情報を選んで図解化する事で、カタチの無い情報を視覚的に一致させる方法を提示した。

他人と話し合いを重ねる中でどうやっても噛み合わない事がある。その結果疲弊することを避けようとして、思考を停止し理解する事を放棄してしまいがちだ。そんな時、「要素の分解」「取捨選択」「要約・再構築」を思い出したい。あの人は余裕が無かったようだから、普段言いもしない事を言ったのだと思える優しさを持ちたい。自らの思考を停止したいがために、画一化して白黒付けたり好き嫌いを決めたくなるが、物事はそんなに単純ではないので落ち着いて考える事を心がけたい。（名取市 小嶋）

<div><div></div>東北大学×青森県立美術館 奈良美智講演会 in 東北大学 記憶の中のカタチ ―豊かさや貧しさ―</div>	
<div><div></div>講師 美術家 奈良 美智 氏</div>	
<div><div></div>2015年11月3日(火・祝) 13:00～ 東北大学文科系総合講義棟2階・法学部第1講義室</div>	

冒頭、青森県立美術館学芸員の奥脇氏から、東北大学と青森県立美術館とが共同で講演会を行うに至った経緯が語られた。歴史にも触れながら、双方の協力によって広く東北のイメージを伝えていく、という概要だったと思う。

講師の奈良美智氏は青森県弘前市出身の美術家。講演会タイトル内にある「記憶の中のカタチ」で示すように、子どもの頃から今までに見聞きた体験が大人になってからのものの見方や作品に影響を与えているという。自身の生まれた1960年代～青森県の風景写真や1983～2003年の間にアフガニスタンなどを訪れた際の写真をスライドで紹介し、背景にある文化を解説していく、という流れ。旅先では、観光地として有名な場所よりも、舗装されていない道路で遊ぶ子どもたちなどのありふれた景色に惹かれるそうだ。かつての弘前の景色と似ているところ懐かしさを覚えるそうだ。便利さや綺麗さだけが、副題「豊かさや貧しさ」の指標ではないということだろう。

何度も口にしていた「意図せず描いている」。最終的にどうなるかは決めず、無意識で直接キャンパスに描く。この手法が色の持つ深みや絵の表情を豊かにすると考えている、と（後から）思うらしい。成長の過程や旅先で得た体験の影響は、色や形の要素として現れることもあるという。

講演会の半数は学生枠であった。学生に対して、学生のうちは責任を持たずにいるんな可能性を試せる。キャリアを積むほどに責任が生まれ、無計画に「一度やってみただけ」は許されない、として挑戦することを示唆していた。

今回の講演会を足掛かりとして、来年の夏には青森県で、それ以降も継続的に東北大学と青森県立美術館とのコラボレーション企画が開催される予定らしいので今後も楽しみだ。

（若林区 あおもり犬）

<div><div></div>■農・環境イノベーション (2)「グローバルゼーションと農業～世界の多様な農業ビジネス～」</div>	
<div><div></div>農・環境イノベーション (3)「生き物ははくくも農業～トンボやドジョウにやさしい水稲栽培～」</div>	
<div><div></div>講師 宮城大学准教授 川島 滋和 氏・宮城大学准教授 神宮宇 寛 氏</div>	
<div><div></div>2015年11月28日(土) 13:00～14:30、15:00～16:30 仙台市市民活動サポートセンター</div>	

<div><div></div>(2)の農業ビジネスは現在のTPPまでの歴史をガットなどの世界貿易自由化等の成り立ち等をわかりやすく楽しい話されて理解出来ましたー。また農産品だけでなく農業技術を含めたトータルな視点が大切だと理解出来ましたー。</div>	
--	--

(3)についてはあかとんぼの生態系の講義を交えつつ自然との共存の大切さを理解出来ましたー。（塩竈市 SIOKAI）

<div><div></div>読者の声</div>	<div><div></div>読者と編集部のカッチボール</div>
<div><div></div>第30号</div>	<div><div></div>装い</div>

「名著への旅」も読むのが楽しみです。鶴見俊輔さんの『期待と回想』読んでみたいと思いました。ドナルド・キーンさん、瀬戸内寂聴さんとの対談本も読みやすくおすすめです。（仙台市青葉区・42歳 女性）

編：あるキッカケからどんどん読書の輪が広がっていく楽しさは何物にも代えがたいものがありますよね。キーンさん、寂聴さんとの対談本、私もどちらもファンなので、ぜひ読んでみたいと思います。

<div><div></div>常盤紺型染、初めて知りました。こんなすばらしいものが仙台にあるのだということを知えておきたいと思いました。仙台市博物館にもぜひ足を運んでみたいです。（仙台市泉区・33歳 女性）</div>	
---	--

編：若林区文化町にある「仙台常盤型伝承館」でも、実際に常盤紺型染を確認することができます。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか？

今までなにげなくしていた化粧ですが、阿部先生の「化粧と心理学」を読んで、なるほどと思うことだらけでした。

「感情調整装置」たしかに、化粧をすることによってスイッチが入る、という気がします。自分を美しく見せる、ということだけではないですね。（仙台市青葉区・56歳 女性）

編：ご感想ありがとうございます。確かに自分を美しくみせるだけでなく、気分を入れるためや元氣を出すために化粧をする事が多い気がします。勝負下着ならぬ勝負メイクもあり、今後も感情調整装置として意識したいです。

本当に読みごたえのある情報誌で驚いています。できれば月刊にしてほしいです。（仙台市若林区・55歳 男性）

編：お褒めの言葉、本当にありがとうございます。励みになります。専業の編集部となった晩には月刊化も夢ではない、かなと……。しばらくは今のペースで、次号を楽しみにお待ちくださいませ。

化粧についての見識が広くなりました。外見はもちろんのこと他にも色々な作用があるので驚きました。（東松島市・25歳 男性）

編：女性なら、メイクをしている時と落とした時と、ついでに言えば盛っている時とで心の切り替えがされているという実感があると思います。記事の中ではネクタイの例がありましたが、男性の実感としてはどうなのでしょうか。

「学び」イベントの情報があり、今後参加したいと思います。（仙台市太白区・67歳 男性）

編：以前ある「学び」イベント会場で、赤鉛筆を手に「まなびのめ」のイベント情報をチェックされている方をお見かけしました。いつもそばに置いて活用していただくと嬉しいです。

その他のお便りと編集部からのコメントはWeb版でご覧いただけます。

<div><div></div>第30号</div>	<div><div></div>「まなびのめ」第30号感賞クイズの正解は下記のとおりです。</div>
<div><div></div>Q.1 飾る化粧をメーキャップということに対し、惹きむ化粧を何という？</div>	<div><div></div>答え スキンケア</div>
<div><div></div>Q.2 紙巻を丈夫で扱いやすいものとするために何という補強を施した？</div>	<div><div></div>答え 糸入れ</div>

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮って応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

<div><div></div>これからの主な</div>	<div><div></div>有科 無料 要申込 申込不要</div>
<div><div></div>「学び」イベント</div>	<div><div></div>▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。</div>
<div><div></div>2 FEB</div>	

<div><div></div>講座「こんなことわかりました。仙台市史」(3)自然編・考古編</div>	<div><div></div>2月13日(土)</div>
<div><div></div>13:00▶15:30</div>	
<div><div></div>講 師 松本 秀明(東北学院大学教授) 他</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 仙台市博物館</div>	<div><div></div>定 員 200名</div>
<div><div></div>主催者 仙台市博物館</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-225-3074</div>
<div><div></div>URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/</div>	

<div><div></div>復興大学公開講座「放射能汚染の問題を考える―私たちはどう考えどう行動すべきか―」</div>	<div><div></div>2月13日(土)</div>
<div><div></div>15:30▶17:30</div>	
<div><div></div>講 師 田村 裕和(東北大学大学院理学研究科教授)</div>	<div><div></div>無料 要申込</div>
<div><div></div>場 所 東北大 川内北キャンパス マルチメディア館2階 2階マルチメディアホール</div>	<div><div></div>定 員 200名</div>
<div><div></div>主催者 復興大学 復興人材育成教育コース</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-795-4933</div>
<div><div></div>URL http://www.fukkou-daigaku-jinzai.jp/extension/</div>	

<div><div></div>東北大学サイエンスカフェ 第125回：遺伝子検査の現状と課題～自分の遺伝子を知る意義と意味～</div>	<div><div></div>2月19日(金)</div>
<div><div></div>18:00▶19:45</div>	
<div><div></div>講 師 鈴木 洋一(東北大学東北メディカル・メガバンク機構教授) 他</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア</div>	
<div><div></div>主催者 東北大学</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-217-5132</div>
<div><div></div>URL http://cafe.tohoku.ac.jp/</div>	

<div><div></div>復興大学公開講座「女性と災害―支援活動を通じて―」</div>	<div><div></div>2月20日(土)</div>
<div><div></div>13:00▶15:00</div>	
<div><div></div>講 師 草野 祐子(みやぎジョネット(みやぎ女性復興支援ネットワーク)代表)</div>	<div><div></div>無料 要申込</div>
<div><div></div>場 所 東北大 川内北キャンパス マルチメディア館2階 2階マルチメディアホール</div>	<div><div></div>定 員 200名</div>
<div><div></div>主催者 復興大学 復興人材育成教育コース</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-795-4933</div>
<div><div></div>URL http://www.fukkou-daigaku-jinzai.jp/extension/</div>	

<div><div></div>「背教者」ユリアヌスに出会った人々と古代末期地中海世界</div>	<div><div></div>2月20日(土)</div>
<div><div></div>15:30▶17:00</div>	
<div><div></div>講 師 小坂 俊介(東北大学大学院文学研究科助教)</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 東北学院大学土曜キャンパス 8号館5階 柳川記念ホール</div>	<div><div></div>備 考 ヨーロッパ文化総合研究所公開講演会</div>
<div><div></div>主催者 東北学院大学 ヨーロッパ文化総合研究所</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-264-6379</div>
<div><div></div>URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/</div>	

<div><div></div>復興大学公開講座「津波被災地域における地域作り」</div>	<div><div></div>2月20日(土)</div>
<div><div></div>15:30▶17:30</div>	
<div><div></div>講 師 柳井 雅也(東北学院大学教養学部教授)</div>	<div><div></div>無料 要申込</div>
<div><div></div>場 所 東北大 川内北キャンパス マルチメディア館2階 2階マルチメディアホール</div>	<div><div></div>定 員 200名</div>
<div><div></div>主催者 復興大学 復興人材育成教育コース</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-795-4933</div>
<div><div></div>URL http://www.fukkou-daigaku-jinzai.jp/extension/</div>	

<div><div></div>れきはく講座「近代の神社造営―志波彦神社を例に―」</div>	<div><div></div>2月21日(日)</div>
<div><div></div>13:30▶15:00</div>	
<div><div></div>講 師 西松 秀記(東北歴史博物館学芸職員)</div>	<div><div></div>無料 申込不要</div>
<div><div></div>場 所 東北歴史博物館 3階講堂</div>	
<div><div></div>主催者 東北歴史博物館</div>	<div><div></div>問合せ TEL 022-368-0106</div>
<div><div></div>URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/</div>	

<div><div></div>復興大学公開講座「東北の苦悩と誇り―3.11からの復興の将来―」</div>	<div><div></div>2月27日(土)</div>
<div><div></div>13:00▶15:00</div>	
<div><div></div>講 師 沢田 康次(学部仙台コンソーシアム復興大学事業前代表/東北工業大学前学長)</div>	<div><div></div>無料 要申込</div>